

January

京都教師塾通信
No.7

令和3年1月23日

学 び の 広 場

京都市教育委員会 教員養成支援室

第15期

「京都教師塾」

模擬授業「小学校における教科学習(道徳) ～自ら学ぶ力を育む授業づくり～」 講師 居林 晃一郎 主任指導主事



本日の講義では、小学校の道徳科で知っておくべきことや、道徳の授業の工夫を学んだ。講義で、道徳的心情や道徳的判断を子ども自身の行動へつなげられるように授業を考えるということが分かった。子どもが自分自身の考えを見つめられるよう、自分事として教材を捉えることができるような発問を行うことができると良いと考えた。授業で子どもたちが自分の意見をきちんとと言える環境をつくりたいと感じた。授業では、登場人物の気持ちが変わったときなど、教材の中にある変化のポイントを黒板に残しておくことで、子どもが見て分かりやすい、変化について考えられる板書をつくることができると分かった。授業の工夫は教師の発問などの言葉だけでなく、板書にも多く含まれていると考えた。板書だけでなく、ICTの活用の工夫についても学ぶことができた。

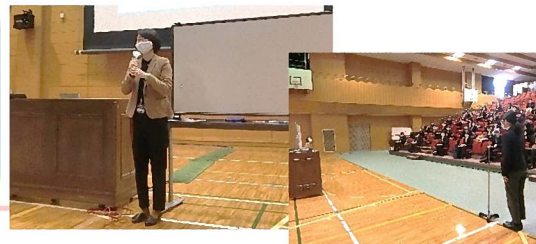
一人一人の道徳性を育む授業づくりのために、教師が教材の葛藤場面や中心場面の設定をしっかりと行っていることがまず必要であると考えた。子どもたちに何について考えてほしいかの思いを持っておきたいと思った。また、授業づくりのために環境づくりも大切であると考えた。お互いに相手を認め合うような雰囲気づくりや、机の整理がされているかなど、道徳の授業に限らないが、環境をつくることも大切であると思った。

これから、自分自身もいろいろな経験から知識、体験の蓄積を行いたい。

講義の中の実際の道徳の授業づくりの肝にあたる部分をよく理解できましたね。子どもにとっても道徳の授業は教材を通して、自己の内面と向き合い、その価値について日常生活に起こりがちな場面でのどのように判断するかを考えること自体に意味があるのです。正解を求めるのではなく、いかに自分と向きあい本音を出し合い、事象を多面的・多角的にとらえ正しく判断できる思考を促せるかです。そして学校生活のいろいろな場面でそれが実践や行動に移せる場面を設定し見取って励ませるかです。センスを磨くために自身に知識や体験を積むということに課題を見い出せたこともよかったですね。



模擬授業「生きる力を育む道徳教育 ～自らを律する力を育む授業づくり～」 講師 角田 千里 指導主事



道徳に即効性を求めてはいけないこと、内容項目を理解した上で道徳科の計画を立てること、道徳科で扱う教材はあくまで「切り口」であり、そこから離れて生徒に考えさせることが重要であると学びました。

「道徳」を学ぶとなると、生徒は気負って考えてしまい、授業の中の発問に答えづらいと感じる部分があると思います。私自身、道徳の授業で意見を言ったり、感想を書いたりする時は、「何か良いことを言わないと（書かないと）」と感じていました。そこで、生徒が答えやすい発問づくりが大事だと考えました。「教師が求める答えを出さなければ」と生徒に気負わせてしまう発問は良くないと思います。生徒一人一人に様々な価値観を共有してもらうためにも、生徒が思ったまま答えられるような発問が重要だと感じます。生徒が自分の意見、考えを自由に披露するためには、教師自身にも多面的・多角的に考える姿勢が必要です。教師が求める意見、考え以外のものを排除する授業では、生徒が進んで自分の考えを发表したいと思う環境にはなりません。教師が答えを1つに絞る発問をしたり、授業の方向性を固定したりするのではなく、あらゆる考えも受け入れ、拾うことが大事だと思います。そのためには、自分自身が、賛成・反対という意見を自分の中で持つことは大事ですが、自身とは別の意見の人はどうしてそう考えるのか、と考える姿勢を育むことが課題であると感じました。日常の様々な話題に目を向け、自分自身の主張を持ち、別の立場の人のことも考える姿勢を身に付けていきたいです。

大切な学びがたくさんありましたね。若年教員のつまずきの傾向として、発問が羅列的になったり指導案通りに流したりするといった形式的な指導の流れになってしまうことが指摘されています。また、「子どもの意見を拾えない」「子ども同士の意見交流が少ない」「導入が長い」なども、つまずきの傾向であるとされているようです。道徳科では、内容項目に関わる道徳的価値をみんなで考えていくことが大切です。また、教材の内容を教えるのではなく、教材で「心を考える」ことが大切です。道徳的価値が一つに絞り込めるものではないことを考えると、子どもたちの意見を幅広く受け止めることが大切です。ね。「道徳科の授業は難しい」という声を耳にしますが、評価はあっても評価はありません。時数の確保は必要ですが、子どもたちにとって、ゆとりの中で楽しく学ぶことができる時間だと思います。また、経験上、子どもと一緒に学ぶ姿勢で臨めば、教師にとっても楽しい時間になると思います。そして、やはり、「みんなで考え、話し合いたい」と思える学級づくりが重要です。



補講の様子

小学校

中学校



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「生きる力を育む道徳教育」を実践しよう！

